

11月25日厚労省交渉・藤村副大臣に要望書提出



2010年11月25日(木)厚労省・藤村副大臣(中央)に要望書を手渡す。右側から議員懇の事務局長 辻元清美氏、会長 斉藤鉄夫氏。左側から被団協事務局長 田中氏、市民の会会長 市場氏、北米被爆者協会会長 友沢氏。

在韓被爆者

第57号
2011.1.20

在韓被爆者問題市民会議
〒114-0024 東京都北区西ヶ原3-66-9
ピーコックビル1階アーク印刷内 及川 佐
電話 090(4818)7709
郵便振替 00130121355828

(もくじ)

◇ 厚生労働大臣への要望書	2
◇ 議員懇総会開催／在外被爆者からの要望書	3
◇ 例会報告	3
◇ 『封印された原爆報告書』上映会	4
◇ 『封印された原爆報告書』を見て	6
◇ 詩	7
◇ ゆり子(故笹本征男氏遺稿より)	7
◇ 「基本懇」答申30年シンポジウム開催	9
◇ 森田隆氏 原爆症認定申請の却下処分を求める訴訟を提起	9
◇ 書籍案内	10
◇ 「活動に貢献された大澤郁夫さん死去」	11
◇ 2月例会のお知らせ	12

市民会議ホームページご覧下さい。
<http://www.asahi-net.or.jp/~hn3t-oikw>
 E-mail:jcpd@peace.email.ne.jp

要 望 書

2010年11月25日

厚生労働大臣 細川 律夫 殿

在ブラジル・在アメリカ被爆者裁判を支援する会 代表 田村 和之 (印省略)
 (連絡先) 〒730-0036 広島市中区袋町4-25 日商岩井袋町マンション402号
 在韓被爆者問題市民会議 代表 小田川 興 (印省略)
 (連絡先) 〒114-0024 東京都北区西ヶ原3-66-9 ピーコックビル1階アーク印刷内
 韓国の原爆被害者を救援する市民の会 会長 市場 淳子 (印省略)
 (連絡先) 〒560-0003 大阪府豊中市東豊中町4-21-10 TEL・FAX 06-6854-7308

在外被爆者に対する平等援護を実現するための要望

厚生労働省におかれましては、この間、「在外被爆者への平等援護」を命じた司法判断に従うに留まらず、在外被爆者援護の充実に務めてこられたことに対して、敬意を表します。

しかしながら、被爆65周年が過ぎた今なお、日本国内被爆者と在外被爆者との間の援護格差は依然として存在しております。

私たちは、高齢化した在外被爆者が一日も早く、日本国内の被爆者と同等の援護が受けられるよう、以下のとおり要望いたします。

要望1 「医療費支給」の上限額撤廃を求めます

日本政府は、在外被爆者の医療費に対して、被爆者援護法に基づく支給を行わず、「在外被爆者保健医療助成事業」によって支給しています。しかし、援護法では支給額に上限がないにもかかわらず、「助成事業」では上限額が設けられています。改正・被爆者援護法の附則2に従って、早急に医療費支給の内外格差をなくすよう要望します。

要望2 402号通達慰謝料「和解」にともなう大臣の謝罪を求めます

この間、韓国・アメリカ・ブラジル在住の生存被爆者たちが、広島・長崎・大阪地裁に「402号通達慰謝料請求訴訟」を提訴し、すでに約2500人が日本政府との和解によって慰謝料を受け取り、現在は、死亡被爆者の遺族との和解協議も始まっています。在外被爆者や遺族たちは、和解に合わせて、日本政府からの真摯な謝罪の表明を望んでいます。

要望3 在朝被爆者への人道的医療支援を求めます

日本政府の在外被爆者援護は、「人道」を基本理念としているにもかかわらず、朝鮮民主主義人民共和国在住の被爆者はその枠外に置かれています。在朝被爆者も高齢化し、原爆後障害に苦しんでいます。「被爆者はどこにいても被爆者」です。2001年に日本政府が行った在朝被爆者実態調査の結果に基づき、早急に人道的医療支援を行うよう求めます。

2009年度の「在外被爆者保健医療助成事業」の実施状況について

- (1) 韓国：①2009年度初めに大韓赤十字社の送金した医療費総額はいくらか？
 ②2009年度末に使用されずに残ったお金として日本に返還された金額はいくらか？
- (2) ブラジル：①民間保険に加入して申請した人は何人か？
 ②医療費の助成で申請した人は何人か？
- (3) アメリカ：医療費の助成で申請した人は何人か？
- (4) 上記以外の国からの申請件数は、国別に何件あったか？

質 問 書

左記の質問は事前にブラジルの森田会長から出された質問を含めてまとめ、斉藤議員を経由し厚労省に提出したものです。

厚生労働省の回答

(1) 韓国①について 290,000千円、②について 21,782千円

(2) ブラジル①については 34人、②については 57人

(3) アメリカ助成申請者数は 499人

(4) 国別申請者数

メキシコ/ボリビア/ペルー/ニュージーランド/フランス/スウェーデン/ポルトガル/
ベトナム/マレーシア/香港 各1人

スイス/ベネズエラ/フィリピン/シンガポール/中華人民共和国 各2人

アルゼンチン/インドネシア 各3人

オーストラリア/ドイツ/タイ 各4人

台湾 9人、カナダ 15人

議員懇開催・要望書提出

11月25日、改装成った参院議員会館で、議員懇が開かれた。北米被爆者協会から友澤会長、支援団体からは『韓国の原爆被害者を救済する市民の会』の市場、平野、豊永、鶴井、河井の各氏、『被団協』からは田中事務局長始め2名。『在韓被爆者問題市民会議』からは渡辺、又重、竹内、石川の各氏が参加した。議員懇では参加会員は50名に達し新しい組織体制が左記のように提案され了承された。とくに各党の担当議員が決まるなど従来より大きな前進があった。

会長 齊藤鉄夫、事務局長 辻元清美、事務局次長 谷合正明、各党代表 民主・平岡秀夫、自民・谷畑孝、公明・谷合正明、社民・服部良一、共産・井上哲士の諸議員。(敬称略)

『韓国の原爆被爆者を救済する市民の会』市場会長より三点の要望についての説明と議員懇からの回答や意見が出された。

要望書2の謝罪について

(市場) 今国会の質問で、大臣に謝罪表明させてほしい。

(議員懇) 国会情勢はこんとんとしている

が、チャンスがあれば謝罪を求めめる。

要望1の医療費について、

議員懇からの回答 長期的には国家補償を認めさせることが必要であり、短期的には具体的方法を模索する。

また、友澤会長より、オバマ改革で、メディケアから50億ドル差し引くといっており、かえって自費負担がふえる可能性がある。その点を考慮し被爆者の負担が増えないよう是非、平等にしてほしい。との要望も出された。

要望3在朝被爆者への人道的支援について

(市場) 志望者増加。(平均寿命低い) 国の思想は違っても支援同じようにしてほしい。国交がないので大使館がない。在朝被爆者同士で差別が出来るのはいやなので、人道援助の40億円のような援助をしてほしい。せめて情報だけでも入れてほしいといっている。

(豊永) 広島の医師会は医療費を持って訪朝の準備をしていたのに、国から止められた。医師団には行く気持ちがある。

(議員懇) 在朝被爆者のひとを差別するのはおかしいという国会質問はできる。

最後にまとめて議員懇の齊藤会長は、お尻を叩いてもらって感謝する。目的に向かってがんばっていききたい。議論のなかで今後の方

向性も明確になってよかった。と発言。

その後藤村副大臣に要望書を手渡す一隊と厚労省交渉と二つに分かれる。

厚労交渉（室長ほか2名出席）

最初に森田さんの要望を伝える（質問書参照）

一 保健医療助成事業実施状況についてプリン

会報第56号に掲載した「原爆被爆65周年 在外被爆者援護と核廃絶を求める声明」英文版で、事務局の行き違いで誤りがありましたので、次のように訂正します。

○見出し

65years after the atomic bombing The Appeal for the full support for the overseas Hibakusha and the abolition of the nuclear weapons

○ [Hibakusha in South America and North America]

According to Japan's Ministry of Health, Labour and Welfare, the number of Hibakusha is about 1000 in North America (The United States and Canada), about 160 in Brazil and about 30 in other countries in South America. They emphatically demand medical support based on the Atomic Bomb Survivors Support Law, such as the reexamination the effectuality of the dispatch of a medical group mainly to North America and Brazil, and the removal of the financial ceiling for medical support.

ト回答あり。検診団毎年は、今の段階では困難。
二 医療費問題について

（厚労省）平成15年以降は手当支給のため、名寄せ資料は厚労省にある。

上限額撤廃はむつかしい。引きあげの努力はしたい。弾力的な取り扱いはしたい。

（市民団体）最重要と認識してほしい。

（厚労省）強い要望として受け止める。でき

例会報告

八月六日放映・NHKスペシャル「封印された原爆報告書」

— NHK広島・松木ディレクターをお招きして 11月20日エディカス東京にて

映画上映後の懇談会での松木秀文ディレクターからの発言

「二年前、広島に赴任、図書館で笹本征男さんの『米軍占領下の原爆調査』を読み、衝撃を受けました。毎年NHKスペシャルで制作しているものの、日本が原爆にどう向き合ってきたかという視点からの制作はありませんでした。毎年、八月になると首相がやってきて、『唯一の被爆国』というが、真正面から原爆と向き合っていない、これは沖縄密約、核持込みにもつながる出発点だと感じ、早速笹本さんと連絡を取りました。笹本さんは広島から声が上がったことが嬉しいと喜ばれ、懇切に以後指導してもらいました。

る工夫はする。支援団体との話し合いは拒まないが、ハードルが高い。

（市民団体）遺族訴訟は大変な作業。早急な和解をはかってほしい。まだ裁判していない遺族が40名いる。

（厚労省）確認作業は大変だが、整合していききたい。だいぶ進んでいる。早くという姿勢でおこなっている。

百八十一冊の英文原爆報告書。一九五三年に日本語で出版されましたが、全体の半分、まさに日本の協力の象徴です。日本文になっっていない半分について、入市

例会で話をする松木秀文氏



被爆について調査しておられる斉藤紀医師に持ちこみ、全部に目を通していただいたところ、門田さんのレポートに着眼され、入市被爆と病気の因果関係をなかなか認めない日本の姿勢の矛盾を指摘することができたと思います。

原爆投下直後の当時の国家の意図は、笹本さんの著書でもまだ不明でしたが、陸軍省医務局の小出元中佐からアメリカ側に提出したことがわかり、大本営にいた三木元軍医少佐（父が医務局長）から、七三一部隊のこともあつるし、かなり有力なカードだった、との貴重な証言が得られました。

また、一万七〇〇〇人の子どものデータなど、報告書に書かれていることは、一人ひとりの命であり、数字ではないことを何としても表したいと思いました。解剖された少女の話も、甥御さんにお会いできて、少女の生前の話の詳細に聞くことができ、命の重みを描くことができたと思います。

以下質疑応答から

質問「笹本さんの本のエッセンスをよく捉えた衝撃的な内容の報道だった。報告書はだれが英訳したのか。」

松木さんの答え「一部は東京帝大のルーズリーフを使ってあつた。それらは、日本の研究者が訳したものだ。」

質問「どうして自主的に研究したものを無条件で米軍に提出したのか。七三一部隊がある

からと言っているが？」

答え「米軍の心証をよくしたいと考えたのだろう。」

質問「プレパラートとの対面、レポートをカードだから渡した、など、きつい番組でよかった。ABC Cのことは？」

答え「ABC Cは、この後。」

質問「心証をよくするためという陸軍参謀の話は興味深かった。報道された以外に、詳しい話があつたか。すんなり話してくれたのか。」

答え「何度も足繁く通い、やつと取材させていただいた。七三二部隊だけでなく、泰緬鉄道、九大生体実験など、捕虜虐待のこと全体をさして語っていた。」

質問「被爆した子どもの死亡率曲線はだれの作成か。」

答え「番組で紹介したグラフは米軍作成。ほぼ同様のグラフを、都築教授も作成している。」

質問「この時代、科学者はどういう対応をすべきだったか。」

答え「科学者一人ひとりを責めるのは、無理。ただ、仲みどりさんが、東大に入院したとき、都築教授は、抜けた髪の毛を取っておけ、と命じ、その翌日に陸軍軍医が来ている。また、

広島では当初、京大調査団を市内に入れないように主張していたようだ。独占したい思いがあつたのでは。被爆者は研究対象でしかなかったと思う。」

質問「放映後、視聴者からの反応は？」

答え「好き嫌いがハッキリ分かれた。戦争を立体的に考えるよい番組、あるいは歴史をもう一回見直す必要があると思つたとの感想があつた。一部の研究者の方からは、封印されたとするのは如何なものか、という批判もあつた。」

質問「龐大な調査をすべて米軍に提供したのが残念。」

答え「東大の参加者は、はじめから米軍調査のためと思つていたようだ。」

感想「椎名弁護士著書にもあるように、国際法違反なのに、いかに踏みこじられてきたか、最初のポタンの掛け違いが今に至っていると感じた。」

質問「広島・長崎二大学にあるプレパラートは、どう活用されているのか。」

答え「保存して、一部は研究に利用されていることもある。長崎の被爆者の臓器の組織からプルトニウムが検出されたと聞いた。」

質問「報告書が、半分だけ日訳された理由は？」

答え「不明。」

質問「報告書は具体的にどう米軍が利用したか。」

参加者からの発言「放射性物質を兵器にするアメリカの計画のとき、担当の部署が、データを寄せ、と言っているが、具体的にどう利用されたかはわからず、今後、調

査していきたい。」

(途中略)

質問「笹本さんは、在韓被爆者市民会議の代表だったが、在韓被爆者について何か語っていたか。」

答え「日本の戦争中の加害性についてよく話していた。香月泰男のこともよく話して

「封印された原爆報告書を見て」

(とめよう戦争への道！百万人署名三多摩連絡ニュース143号より転載)

又重勝彦 (運営委員)

8月6日NHKテレビで放送された「NHKスペシャル・封印された原爆報告書」を、ぼくは見る事ができませんでした。しかし、11月20日に「在韓被爆者問題市民会議（小由川興代表、以下「市民会議」）が、このドキュメント作品を制作した松木秀元ディレクター（NHK広島）を招いて、東京・番町のエディカス東京（全国教育文化会館）でその上映会をおこなったので、ぼくも見ることができました。ぼくも「市民会議」の会員です。

上映後に松木さんと観客たちとの熱心な質疑応答があり、ぼくは大いに学ぶことができました。本誌の読者の皆さんの中にはテレビで見た人が少なくないでしょうから、詳しい話は省略します。ひとつふたつ、ぼくが驚いたことを述べることにします。

原爆報告書というのは、アメリカ軍が広島

いた。」

感想「笹本征男さんと四十年來の友人。NHKで、今日配られた藤木達弘氏の弔辞「笹本さんを送る言葉」のなかの、アルミの弁当箱で食事をしていたというところを読むと、その姿が四十年前の姿と重なる。」

市に原爆を投下した2日後、日本の陸軍医務局が調査団を派遣、その後おがかりな調査団が作られて、被害全般を調査し最終的には181冊の調査書を作成したものです。それを日本政府がアメリカ側に提供したのです。

アメリカ側の要求がなかった段階でそうしたそうです。アメリカの心証をよくするためだったので。のちに「日本人の協力のたまものです」と、当時のアメリカの関係者は言っています。協力？何の協力でしょうか。それは、第2次世界大戦後のアメリカの核戦略のための協力です。爆心地からの距離と人間の死亡率の関係をはじめとする各種データは、たとえばモスクワを壊滅させるには何発目原爆が必要かといった問題の参考になるでしょう。

日本政府・軍部・医師団は、被爆者の救助

や治療をするどころか、被爆者をモルモット扱いしました。その例として被爆者の解剖があります。解剖された人々の臓器はガラスびんに保存され大学に保管されました。ある被爆死した少女の場合、皮膚のプレパラートが5枚、標本にされたものがのこっただけでした。のちに甥の人がそれを知って「初めて会う叔母さんがこんなになっているとは！」と衝撃を受けるシーンを、ぼくは忘れられません。

「市民会議」の前代表で今年の3月に66歳で亡くなった笹本征男さんは、この原爆調査をめぐる日米の協力について詳しい研究書をのこしてくれました。『米軍占領下の原爆調査』(1995年・新幹社)という大著です。笹本さんは、原爆調査に関する日本側のアメリカに対する全面的な協力で「原爆被害者に対する日本軍の『加害責任』が発生している」と述べています。これは何かにつけ「日本は唯一の被爆国」と今もって平気で言う日本の政治家に決定的に欠落している認識です。また「原爆の被害国家が真の『加害国家』であったことの指摘をなし得ずして、平和思想も被害者への援護も存在しない」と笹本さんは日本人への認識の急所を突きます。映画を見た人はぜひこの本を手にとってくださいませんか。

ゆり子

笹本征男

あの時、あなたは母の羊水の中にいた
敵軍、アメリカ軍の飛行機があなたの母
たちのいる

都市、広島市に原子爆弾を投下した

あなたは羊水の中で

何も見ず

何も知らず

日本は戦争に敗れた

敵軍は日本を占領した

自ら使った大量殺戮兵器の効果で

大量殺戮のその現場で調べた

敵軍は何万人もの妊娠した被爆した母た

ちと生まれてきた幼児たちと

被爆しなかった母たちと生まれてきた幼

児たちを調べた

効果を比較するために

あなたは小さな頭を持って生まれた

敵軍はあなたの存在を突き止めた

そして他の多くの幼児たちと共に

あなたを大量殺戮兵器原子爆弾の効果の

一事例として

調査報告書に記録した

あなたたちを救済すべき

日本政府が敵軍の調査に全面協力した

わずか五年間で三千万円もの金を投入

して

今の何十億円だろう

原爆加害国アメリカに協力した被害国

日本は

侵略戦争の推進者であった

あなたを実験材料として敵に提出する

ことに

日本政府は躊躇しなかったであろう

敗戦後、昭和天皇裕仁を頂点とする体

制は

象徴天皇制として残った

あなたは胎内被爆症候群という法律の

ことばで

言われる人たちのひとり

私はあなたの生まれた時より少し前に

あなたの故郷の町から山脈をひとつ隔

てた村で生まれた

私はあなただったかも知れない

そのことが私の怒りを深める

あなたは水俣のあの少女に重なる

母の裸の胸に抱かれた、あの写真の少

女に

その人も母の羊水の中で

何も知らず

水俣窒素会社の製造した有機水銀の毒

を

引き受けた

それは戦争の時ではなかったが、

あなたやあの少女には

何の違いがあるのか

あなたはもう還暦を迎えたのか

私はもう還暦を過ぎてしまった

ゆり子、私は小さな声でつぶやく

広島、長崎からプルトニウム社会へ

この六十数年で日本はなった

日本は隣国への脅威となった

あなたは生きる

あなただけの生を

ゆり子、私は小さな声でつぶやく

あなたは私の怒りと悲しみの源泉

(二〇〇六年十二月二十三日、平成天

皇明仁の誕生日という日に)

(故笹本氏の遺稿より)

「基本懇」答申30年シンポジウム
私たちは受忍しないー開催される。

10月25日付朝日新聞(8頁参照)のように1978年の孫振斗最高裁判決は「原爆医療法には、国家補償的配慮が根底にある」指摘した。これを受けて政府は1979年6月に『原爆被爆者対策基本問題懇談会』を発足させ、1980年12月まで13回会議開き答申を発表した。その答申の内容は『受忍論』中心にした実質的には最高裁判決の『骨抜きに』等しいものであり『国家補償』による『原爆医療法』を認めないことであった。
先般基本懇の議事録が公表されたことによってその内容が明らかになった。



12月12日シンポジウム

それを受けて2010年12月12日主婦会館プラザエフにて日本原水爆被害者団体協議会(被団協)主催で、約百三十人の参加のもとシンポジウムが開催されました。パネリストには濱谷正晴氏(一橋大学名誉教授)／直野章子氏(九州大学大学院准教授)／内藤雅義氏(弁護士)／田中熙巳氏(日本被団協事務局長)。コーディネーターには／栗原淑江氏(「自分史

をつうしんヒバクシャ」主宰)／木戸季市氏(日本被団協事務局次長)がなり、活発な議論が行われた。
『国家補償』に基づく編護法への改正を求めていることを確認した。
(参考) 基本懇答申及び孫振斗最高裁判決は当市民会議ホームページにて掲載しておりますのでご覧ください。

原爆症認定

在外被爆者初の提訴

ブラジル 却下取り消し請求

ブラジル・サンパウロなどを求める訴訟を広島市に住むブラジル被爆地裁に起こした。弁爆者平和協会の森田隆護団によると、在外被爆者(86)が12日、国を爆者が認定をめぐって相手に原爆症認定申請 提訴するのは初めて。却下処分を取り消し 訴状などによると、



在外被爆者の救済を訴える森田さん (広島市中区の広島弁護士会館)

森田さんは爆心地から1・3キロの路上で被爆。2008年6月、心筋梗塞を理由に原爆症の認定申請を厚生労働省にしたが、今年5月に「放射線の起因性が認められない」と却下された。
国は08年4月、爆心地から3・5キロ以内で被爆した場合、がんや心筋梗塞、白血病などについて積極的に認定する新基準を導入した。森田さんは「却下

は被爆者援護法に反する違法行為」と主張している。
一時帰国している森田さんはこの日、広島市中区で記者会見し「在外被爆者に明る道筋を一日も早くつりたい」と話した。(山崎雄一)

11月13日中国新聞より

書籍案内1

茅野丈二・平野伸人 編著 『命をつないでー在韓被爆者、金文成さん救援の記録』
(長崎新聞社)



キム・ムンソン (金文成) さんがヒロシマで被爆したのは7歳のときでした。その後ずっとキムさんのやけどの傷は満足な治療を受けられないまま一九九〇年代にいたります。

そのキムさんと平野伸人さんが出あったのは、「長崎県被爆二世教職員の会」を結成した平野さんが、韓国で韓国人被爆者の実態調査を続けていたときでした。平野さんはキムさんの傷をみて驚きます。そして、茅野丈二さんが院長の長崎友愛病院に入院するように奔走、キム

さんは94年に同病院に入院しました。

茅野丈二・平野伸人編著『命をつないで』(2010年10月刊、1500円・長崎新聞社)はキムさんの被爆体験と治療の記録です。さまざまな人と人との出あいや被爆者60余年の歳月の中でできごとが語られています。キムさんの被爆の傷の手術前(カラー)と手術後(白黒)の写真は、被爆のむごさ、キムさんの壮絶な傷とのたたかいと、手術の見事な成功が一目でわかるものです。そこには、日本政府に「忘れ去られた韓国人被爆者」と被爆者対策の遅れ、その一方で民間レベルの被爆者支援に尽力した人びとの無私な姿が見えてきます。表紙に名前を出していませんが編著者のひとり高比良由紀さん(長崎新聞社記者)の後記にある「普通の市民の力」という表現は示唆深く印象的です。あきらかに被爆による傷があり障害であるのに、それを認めない国や国の側に立つ識者たちは、本書の声に耳を傾けなくてはなりません。

書籍案内2

大門高子・文
松永禎郎・絵 『やくそくのどんぐり』(新日本新聞社)



韓国の被爆者と日本の医師との出あいをめぐるヒューマン・ドキュメントを絵本にしたのは、大門高子・文/松永禎郎・絵『やくそくのどんぐり』(2010年9月刊、1500円、新日本出版社)です。絵本は今日のおさない子供たちの読みものだけではなく、世代をこえた新しい出版美術であり、人びとの間に埋もれたり忘れられている人やことがらを伝える語り部です。この絵本もそういう一冊で、実話もとづいています。

原爆が広島市に投下されたとき亡くなった人は約16万人。日本人だけではなく広島市にいた十数カ国の人びとも被爆したことを日本人は知らなくてはなりません。とりわけ韓国・朝鮮の人は5万人が被爆し3万人が亡くなっています。なぜなのか。その理由を絵本の少ない字数

の文章で作者はよく伝えていきます。

「わたしは、キム・スンギといっています。」

ヒロシマで生まれ、金田正夫かねだまさおという名前で育ちました」(本書の初めの部分)。

イ・スンギ(李順基)さんという韓国のハプチョンに住む被爆者がモデルとなったキム少年は、小学校の黒板にハンゲルを書いて教師に殴られた経験があり、画家は黒板の横に立つ少年の絵で、まぎれもない日本が犯した歴史の一頁を証言しています。いっしょにどんぐりを拾った「武くん」たけ。8月6日が来ます。気がつくとき家の下じきに。「武ちゃん」と読んでも返事がこない。なんとという惨禍。戦後、ハプチョンに帰った彼の原爆症があらわれます。広島で治療に当たった医師で詩人の丸屋博さんは入市被爆者。二人の出あいと友情の象徴が、平和公園で拾ったどんぐりです。イ・スンギさんが今後もハプチョンで育て、木となったヒロシマのどんぐり。絵本は「命のつながり」を雄弁に語り伝えていきます。

(又重勝彦)

「活動に貢献された大澤郁夫さん死去」

小田川興

本市民会議の活動に尽力された劇団「展望」主宰、大澤郁夫さんが昨年10月31日、肺化膿症で逝去された。享年81歳。

大澤さんは慶応普通部時代、市民会議代表を長年つとめた故中島竜美さんや普通部仲間の林光さん、また高橋昌也さんたちと東京都中等学校演劇連盟(高校演劇連盟の前身)を結成して以来、生涯を演劇活動に捧げた。

60年安保の激動期を経て、1970年に劇団「展望」を立ち上げ、本格的な演劇活動を開始。社会の底辺の人々に光を当てる「集団創作」の演出で高い評価をうけた。代表作はドイツでも紹介された「日本繁栄学落第・ま昼のちようちん」、西表島にあった炭鉱に連行された朝鮮人や島民の暮らしを題材にとった「鳥のこえ鳥のこえ」など。ドイツ演劇人を招いて公開稽古を兼ねたセミナーを開くなど、日独演劇交流に尽くした。

日中話劇人社の日本側リーダーとして日中演劇交流、また韓国演劇人との交流などアジアの演劇界との架け橋役でもあった。時に餃子パーティーも催して温かいもてなしが大沢流だった。

「展望」アトリエを市民会議の会合やイベント。

トの場にたびたび提供してくださった。日系のオカザキ監督による在米被爆者のドキュメンタリー上映も行った。中島さん、そして前代表の笹本征男さんを偲ぶ会も「展望」で開き、多くの方々が駆けつけた。その時の大沢さんの「同志を失った」悲痛な顔は忘れられない。いまごろ天国で、3人で何を語り合っていることだろうか。

合掌

※「展望」では毎月、「阿佐ヶ谷市民講座」を開き、講演や映画上映などを行っている。東京都杉並区阿佐ヶ谷南3-3-32。連絡は林陽子さん(電話 03-3393-2739)へ。



2月の例会のお知らせ

<韓国のヒロシマ>をを考えてみませんか？

広島で被爆したのは日本人だけではありません。厚生労働省の調査によれば、2007年段階で「被爆者手帳」を取得している人々が居住する国は、アメリカ、ブラジル、中国、カナダ、オーストラリア・・・など30数カ国に及び、人数にして合計4,275人。

その中でも一番多いのが、韓国の2,893人です。戦後の複雑な政治状況の中で、朝鮮民主主義人民共和国で「被爆者手帳」を取得している人はたった1人しか確認されていませんが、もちろんそれ以上の多くの被爆者がいるに違いありません。それは韓国でも同様で、「被爆者手帳」を取得できない、あるいは、しない被爆者もたくさんいます。

さて、今回の例会では、NHK広島放送局の吉楽^{きらく} 紗^{さち}さんが取り組み、2010年7月23日に広島放送局から「ふるさと発スペシャル」として放送された「原爆棄民 ～韓国人被爆者の65年～」を視聴しながら、ヒロシマと韓国人被爆者の問題を、私たち自身の課題として考えてみたいと思います。尚、フォト・ジャーナリストで『韓国のヒロシマ』等の著書のある鈴木賢士さんをお招きしてお話を伺います。

ぜひみなさん、ご都合をつけておいで下さい。

時 間 : 2011年2月12日(土) 午後1時半～ (午後4時頃終了予定)

場 所 : 池袋豊島産業プラザ(東京都豊島区東池袋1-20-15)

JR・東京メトロ(丸の内線、有楽町線、副都心線)・西武線・東上線
(各線池袋東口下車 徒歩7分)

参加費 : 500円



会場
豊島区民
センター
裏